

## 山形県立中央病院で診療を受けられた皆様へ

当院では、下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用、または、提供されることを希望されない場合は、下記の問合せ先にお問合せください。

研究課題名	再発危険因子を有するStage II大腸癌に対するUFT/LV療法の臨床的有用性に関する多施設共同研究 (JFMC46-1201)
該当者	R0手術が行われた再発危険因子を有する組織学的Stage II大腸癌症例
当院の研究責任者	外科 佐藤敏彦
研究代表者	東海大学 消化器外科 貞廣 莊太郎 教授
本研究の目的	治癒切除後のStageII大腸癌において再発高リスクと考えられる症例を対象に、手術単独に対してUFT/LV術後補助化学療法を行い、その有用性を比較検討すること。
実施予定期間	症例登録期間 2012年5月～2016年4月
研究の方法	結腸癌および直腸S状部癌のうちR0手術が行われた20-80歳症例で、再発危険因子としてT4、穿孔・穿通、低分化腺癌、粘液癌、郭清リンパ節個数<12個のうち一つ以上を有する組織学的Stage II症例を対象とした。治療法は本人が決定し、手術単独選択群(A群)と試験治療群(B群)に分けた。試験治療群は補助化学療法としてUFT(300mg/m <sup>2</sup> /day)/LV(75mg/day)を5日連続投与2日休薬、または28日連続投与7日休薬、いずれも25週間で行った。主要評価項目は無病生存期間(DFS)、副次的評価項目は全生存期間(OS)とした。
研究に用いる試料・情報の種類	年齢、性別、診断、手術内容、治療経過、合併症、予後
外部への試料・情報の提供・公表	調査研究成果を第123回日本外科学会定期学術集会で公表します。
個人情報の取扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者さんを直接特定できる個人情報は削除します。
利益相反	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業はありません。
お問合せ先	外科 佐藤敏彦 023-685-2626